

平成 24 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	24K15	氏名	家近 理恵
研究主題 —副主題—	聞いて返す力を高める「話し合い活動」の充実 —発表したがない児童を視野に入れて—		
所属校	葛飾区立亀青小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>今回の小学校学習指導要領改訂では、教育内容に関する主な改善事項の第1項として、「言語活動の充実」が挙げられている。これにより各教科の言語活動の充実のため、その中核を担う国語科は、従来以上に大切な役割を担うこととなった。中でも、「言葉を通して的確に理解し論理的に思考し表現する能力」「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力」を育成することが重視されている。併せて「伝え合う力」は、知識基盤社会化や国際化が進展する中、相互理解を深め、豊かな人間関係を育む上で必要な「生きる力」を支えるために最も重要な力の一つであると捉える。</p> <p>この「伝え合う力」の育成に当たっては、話し合い活動のような双方向的な言語活動の充実が大切である。しかし、実際の授業では、児童の話し合いがうまく連鎖せず、話し手が話し、聞き手が聞く、という一方的な意見の「言い合い」に陥る場面がよく見られる。このような単なる「言い合い」をいくら繰り返しても、伝え合う力は育たない。その改善に向けて、一番大きな役割を果たすのは「聞いて返す」という行為だろう。なぜなら、話を「聞いて返す」という行為がなされて始めて話し合い活動が生まれるからである。話し合い活動では、聞き手が話を聞いてどのように返すかが、その後の話の展開に大きな影響を与えていく。聞き手が意欲的に聞き、考えて返す活動が活発になされれば、話し合いがより深まっていくことになる。そのため、「伝え合う力」を高めるためには、「聞いて返す力」の育成が重要だと考えた。</p> <p>そこで、本研究では、研究の目的と仮説を次のように設定し、研究を進めることとした。</p> <p>1 研究の目的</p> <p>国語科の話し合い活動において、児童の「聞いて返す力」育成のための指導の手立てを明らかにし、「伝え合う力」の育成に役立てる。</p> <p>2 研究の仮説</p> <p>小学校国語科の話し合い活動において、下記の3点の指導の手立てを取り入れることで、友達の意見を聞いて返そうとする意欲が高まり、「聞いて返す力」が育つであろう。</p> <p>①話し合い活動の基本パターンの設定と繰り返しによる定着 ②「言葉のキャッチボール」という合言葉による「聞いて返す」ことの意識化 ③「つなぐ言葉」を重視した「聞いて返す」話し合い活動の実施</p> <p>同時に、指導の手立てを講じても発表したがない児童の心理を分析し、それらの児童が「聞いて返す力」を高めるための教師の配慮事項についても考察を加えることとした。</p>
II 研究の方法	<p>1 基礎研究（先行研究や文献の分析・検討） （1）「伝え合う力の育成」「聞く力の育成」に関する先行研究・実践の分析 （2）分析結果を生かした基本構想の立案</p> <p>2 調査研究 （1）所属校4年生児童を対象とした「話す・聞くこと」の意識調査</p> <p>3 実践研究 （1）検証授業に向けての単元指導計画・学習指導案の作成 （2）検証授業の実施（第4学年3学級「学級で話し合おう」全6時間） （3）検証授業の分析と考察・研究のまとめ</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>「聞いて返す力」育成のための指導の三つの手だての工夫とその有効性</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="491 203 775 421"> <p>①話し合い活動の基本パターンの設定と繰り返しによる定着</p> </td> <td data-bbox="782 203 1444 421"> <p>話し合い活動中、自分が今何をしているのか、次に何をするのか、という見通しがもてるようになり、話し合いがスムーズに流れるようになった。話し合い活動を繰り返すたびに、「聞いて返す活動」が活発になされるようになっており、このパターンの他教科への応用も十分に期待できる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 430 775 600"> <p>②「言葉のキャッチボール」という合言葉による「聞いて返す」ことの意識化</p> </td> <td data-bbox="782 430 1444 600"> <p>多くの児童の振り返り欄に、毎回のように「言葉のキャッチボール」という合言葉が記述されており、この合言葉を強く意識して話し合いに臨んでいたことがわかった。児童の話し合い活動への意欲の向上に有効であった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 609 775 745"> <p>③「つなぐ言葉」を重視した「聞いて返す」話し合い活動の実施</p> </td> <td data-bbox="782 609 1444 745"> <p>その後の話し合い活動以外の授業でも、友達の意見に「つなぐ言葉」を使って返す機会が増え、児童に、自分の意見と友達の意見を比べながら聞いて返す力が育成されつつあることがわかった。</p> </td> </tr> </table>	<p>①話し合い活動の基本パターンの設定と繰り返しによる定着</p>	<p>話し合い活動中、自分が今何をしているのか、次に何をするのか、という見通しがもてるようになり、話し合いがスムーズに流れるようになった。話し合い活動を繰り返すたびに、「聞いて返す活動」が活発になされるようになっており、このパターンの他教科への応用も十分に期待できる。</p>	<p>②「言葉のキャッチボール」という合言葉による「聞いて返す」ことの意識化</p>	<p>多くの児童の振り返り欄に、毎回のように「言葉のキャッチボール」という合言葉が記述されており、この合言葉を強く意識して話し合いに臨んでいたことがわかった。児童の話し合い活動への意欲の向上に有効であった。</p>	<p>③「つなぐ言葉」を重視した「聞いて返す」話し合い活動の実施</p>	<p>その後の話し合い活動以外の授業でも、友達の意見に「つなぐ言葉」を使って返す機会が増え、児童に、自分の意見と友達の意見を比べながら聞いて返す力が育成されつつあることがわかった。</p>				
<p>①話し合い活動の基本パターンの設定と繰り返しによる定着</p>	<p>話し合い活動中、自分が今何をしているのか、次に何をするのか、という見通しがもてるようになり、話し合いがスムーズに流れるようになった。話し合い活動を繰り返すたびに、「聞いて返す活動」が活発になされるようになっており、このパターンの他教科への応用も十分に期待できる。</p>										
<p>②「言葉のキャッチボール」という合言葉による「聞いて返す」ことの意識化</p>	<p>多くの児童の振り返り欄に、毎回のように「言葉のキャッチボール」という合言葉が記述されており、この合言葉を強く意識して話し合いに臨んでいたことがわかった。児童の話し合い活動への意欲の向上に有効であった。</p>										
<p>③「つなぐ言葉」を重視した「聞いて返す」話し合い活動の実施</p>	<p>その後の話し合い活動以外の授業でも、友達の意見に「つなぐ言葉」を使って返す機会が増え、児童に、自分の意見と友達の意見を比べながら聞いて返す力が育成されつつあることがわかった。</p>										
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>今回「聞いて返す力」育成のための三つの指導の手だては有効であったが、この手だてを講じた授業を実践しても、依然として「返す力」が育たない児童（発表しつけない児童）が2割も存在することが明らかとなった。それらの児童の心理をインタビューから探った結果、児童が日頃抱えている不安が明らかとなった。その結果を基に、発表しつけない児童が「聞いて返す力」を高めるための教師の配慮事項を下表にまとめる。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="491 972 683 1189"> <p>温かい学級の雰囲気育成</p> </td> <td data-bbox="689 972 1444 1189"> <p>発表しつけない要因として「みんなと違っていたらどうしよう」や「間違えたら恥ずかしい」など、周囲の受け止め方に不安を感じ、発表を躊躇する児童の姿が浮かび上がってきた。たとえ間違った発言をしても決して笑ったりせず、それをまず受け入れ、それをもとに教え合えるような、温かい学級の雰囲気を築くことが、話し合い活動においての必要条件といえよう。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1198 683 1368"> <p>成功体験を積み重ねる場の設定</p> </td> <td data-bbox="689 1198 1444 1368"> <p>今回提案した指導の手立てを取り入れた授業をより多く実践し、発表の喜び体験（教師や友達に認められる体験等）を多く積ませたことが、発表しつけない児童の不安の軽減に大きな効果を与えた。普段から話し合いの場を多くもたせ、小さな成功体験を積み重ねさせることを心掛けたい。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1377 683 1480"> <p>自分の考えをもたせる工夫</p> </td> <td data-bbox="689 1377 1444 1480"> <p>自分の考えがもてない児童には、最初にワークシートに考えを書く手だてや、友達の考えを聞いて、その考えをもとに自分の考えを構築する手だて等を取り入れることが有効である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1489 683 1559"> <p>技能指導の工夫</p> </td> <td data-bbox="689 1489 1444 1559"> <p>発言の仕方がわからない児童には、伝え合うための技能指導（つなぐ言葉を使った話型の提示等）が有効である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1568 683 1951"> <p>聞く力の育成</p> </td> <td data-bbox="689 1568 1444 1951"> <p>児童が多くの友達の多様な考えに触れ、価値観が広がる楽しさを実感することで、もっといろいろな意見を聞きたい、質問したい、という意欲が向上し、友達の意見を「聞いて返す」力につながっていく。また、自分の考えと友達の考えを比べながら聞く中で、自分の考えが内容的に深化していくことの実感も、児童を変えるきっかけとなる。話し合い活動を経て、オリジナリティのある考えが浮かんだ児童は、自己肯定感の高まりを感じたようであった。価値観が広がる楽しさ、選択肢が広がる楽しさ、考えが深化する楽しさ等への気づきが、さらに多くの考えに触れることへの意欲を向上させ、「聞いて返す力」を高める原動力となっていくのである。</p> </td> </tr> </table> <p>我々教師は、日々の教育活動の中で、発表しつけない児童が心の中に抱えている不安要因を正しく把握し、上記で提案したような個に応じた手だてを講じることで、個々の不安を軽減することが必要である。</p>	<p>温かい学級の雰囲気育成</p>	<p>発表しつけない要因として「みんなと違っていたらどうしよう」や「間違えたら恥ずかしい」など、周囲の受け止め方に不安を感じ、発表を躊躇する児童の姿が浮かび上がってきた。たとえ間違った発言をしても決して笑ったりせず、それをまず受け入れ、それをもとに教え合えるような、温かい学級の雰囲気を築くことが、話し合い活動においての必要条件といえよう。</p>	<p>成功体験を積み重ねる場の設定</p>	<p>今回提案した指導の手立てを取り入れた授業をより多く実践し、発表の喜び体験（教師や友達に認められる体験等）を多く積ませたことが、発表しつけない児童の不安の軽減に大きな効果を与えた。普段から話し合いの場を多くもたせ、小さな成功体験を積み重ねさせることを心掛けたい。</p>	<p>自分の考えをもたせる工夫</p>	<p>自分の考えがもてない児童には、最初にワークシートに考えを書く手だてや、友達の考えを聞いて、その考えをもとに自分の考えを構築する手だて等を取り入れることが有効である。</p>	<p>技能指導の工夫</p>	<p>発言の仕方がわからない児童には、伝え合うための技能指導（つなぐ言葉を使った話型の提示等）が有効である。</p>	<p>聞く力の育成</p>	<p>児童が多くの友達の多様な考えに触れ、価値観が広がる楽しさを実感することで、もっといろいろな意見を聞きたい、質問したい、という意欲が向上し、友達の意見を「聞いて返す」力につながっていく。また、自分の考えと友達の考えを比べながら聞く中で、自分の考えが内容的に深化していくことの実感も、児童を変えるきっかけとなる。話し合い活動を経て、オリジナリティのある考えが浮かんだ児童は、自己肯定感の高まりを感じたようであった。価値観が広がる楽しさ、選択肢が広がる楽しさ、考えが深化する楽しさ等への気づきが、さらに多くの考えに触れることへの意欲を向上させ、「聞いて返す力」を高める原動力となっていくのである。</p>
<p>温かい学級の雰囲気育成</p>	<p>発表しつけない要因として「みんなと違っていたらどうしよう」や「間違えたら恥ずかしい」など、周囲の受け止め方に不安を感じ、発表を躊躇する児童の姿が浮かび上がってきた。たとえ間違った発言をしても決して笑ったりせず、それをまず受け入れ、それをもとに教え合えるような、温かい学級の雰囲気を築くことが、話し合い活動においての必要条件といえよう。</p>										
<p>成功体験を積み重ねる場の設定</p>	<p>今回提案した指導の手立てを取り入れた授業をより多く実践し、発表の喜び体験（教師や友達に認められる体験等）を多く積ませたことが、発表しつけない児童の不安の軽減に大きな効果を与えた。普段から話し合いの場を多くもたせ、小さな成功体験を積み重ねさせることを心掛けたい。</p>										
<p>自分の考えをもたせる工夫</p>	<p>自分の考えがもてない児童には、最初にワークシートに考えを書く手だてや、友達の考えを聞いて、その考えをもとに自分の考えを構築する手だて等を取り入れることが有効である。</p>										
<p>技能指導の工夫</p>	<p>発言の仕方がわからない児童には、伝え合うための技能指導（つなぐ言葉を使った話型の提示等）が有効である。</p>										
<p>聞く力の育成</p>	<p>児童が多くの友達の多様な考えに触れ、価値観が広がる楽しさを実感することで、もっといろいろな意見を聞きたい、質問したい、という意欲が向上し、友達の意見を「聞いて返す」力につながっていく。また、自分の考えと友達の考えを比べながら聞く中で、自分の考えが内容的に深化していくことの実感も、児童を変えるきっかけとなる。話し合い活動を経て、オリジナリティのある考えが浮かんだ児童は、自己肯定感の高まりを感じたようであった。価値観が広がる楽しさ、選択肢が広がる楽しさ、考えが深化する楽しさ等への気づきが、さらに多くの考えに触れることへの意欲を向上させ、「聞いて返す力」を高める原動力となっていくのである。</p>										